



〈雑録〉海上保険契約ノ「テnder, クローズ」ニ就テ

倉田, 庫太

(Citation)

経済學商業學國民經濟雜誌, 9(1):113-120

(Issue Date)

1910-07

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051598>



海上保險契約ノ「テンダ

ー、クローズ」ニ就テ

商學士 倉田庫太

(1) Tender Clause トハ何ゾヤ

「テンダークローズ」トハ保險證券特別約款ノ一ツニシテ保險者ノ利益ヲ擁護スルガ爲メニ設定セラレタル特約ヲ云フ即チソノ目的トスル所

ハ被保險船舶ガ保險者擔保ノ海難ノ爲メニ損傷ヲ被ムリタル場合ニソノ損害ノ決定方法ヲ示シ又ハ填補スベキ修理費ノ限定方法ヲ定ムルニアリ今ソノ大要ヲ述ブレバ保險者填補ノ責任アル修理ノ必要發生シタルトキハ(1)被保險者ハ豫メソノ修理費ノ見積書ヲ保險者ニ提出シテソノ同意ヲ得ルコト(2)修理後保險者ノ代表員又ハ指定検査員或ハロイド司檢員等ノ検査ヲ受クルコト等ノ義務ヲ被保險者ニ負ハシメ若保險者ニ於テ被保險者提出ノ見積ニ付キ異議アル時ハ保險者自ラ適當ナル修繕者ヲシテ別ニ見積ヲ提出セシメソノ最モ低廉ナルモノニ修繕ヲ委託スベキコトヲ被保險者ニ要求スルコトヲ得ル旨ノ留保ヲ有スル特約ナリソノ主意ハ被保險者ヲシテ不必要ナル修理ヲナスコトヲ避ケ適當ナル填補ヲ得セシメザルニアリ換言スレバ保險契約ノ下ニ不當ナル利得ヲ爲サシメザルニアリ而シテ此條項ハ一般ノ海損填補ニ關係アルト同時ニ全損

擔保ノ契約ニ於テ準全損タルヤ否ヤノ決定標準ヲ示メスモノニシテ保險者被保險者間ノ利害ニ甚大ナル影響ヲ有ス斯クノ如ク此特約タルヤ保險者ノ利益ヲ本位トスルモノナルヲ以テ被保險者タル船主ハ片務的義務ヲ負ヒテ不利益ナルコト多シ故ニ準全損ノ決定修理費ノ當否ヲ定ムル

ニ當リテ若此約款ヲ採用スルトセバ保險者被保險者間ノ紛議ハ究極スル所ナキニ至ラン多クノ場合ニ於テハ兩者ノ相互信用ノ下ニ妥協スルノ勝レルニ如カザルナリ若シ極端ニ此條項ヲ遵守スルトセンカ損傷ヲ被ムレル船舶ハ修理費見積決定ノ爲メニ徒ラニ滯泊スルカ又ハ幾多ノ港灣ノ造船所ヲシテ修理費ノ見積ヲナサシメ最モ低廉ナル見積ヲナセシ造船所所在港ニ回航セザル可ラザルノ結果ヲ生ゼン斯クノ如キハ保險契約ノ目的ニ非ズ抑モ亦此特約ノ主旨ニ非ルベシ要ハ被保險者タル船主ヲシテ善良ナル無保險船主ガ採ルベキ方法ノ下ニ失當ナラザル修理ヲ

行ハシムルニアリ是レ正サニ此約款ヲ解釋スルニ當リ念頭ヲ離ル可ラザル根本的觀念ナリト信ズルモノナリ本邦ニ於テ普通保險證券ニ印刷セラレタル「テンダー、クローズ」ニ準スル條項ハ左ノ如キモノナリ

當會社ニ填補ヲ請求スベキ損傷發生シタルトキハ被保險者又ハソノ代理人ハ被保險船舶ノ修理ヲ行フ前豫メ其損傷ニ對シ當會社ノ満足スル検査人ノ檢定ヲ受ケ其検査報告書及修理受負者ノ修理費見積書ヲ當會社ニ提出スベシ當會社ハ一名若クハ一名以上ノ修理受負者ヲシテ見積書ヲ提出セシメ其最モ低廉ナルモノニ修理ヲ委託スベキコトヲ被保險者ニ請求スルコトヲ得但外國ニ於テ修理ヲ要スルガ爲メ本條ヲ適用スルコト能ハザル場合ニハ其發生ノ都度當事者間ニ協定スベシ

本條ニ於テハ検査費用其他ノ費用ヲ被保險者ニ於テ支辨シ修理費中ニ合算シ保險者ノ填補額ヲ決定スベシ

更ラニ一般の主トシテ準全損決定ノ場合ノ修繕費ニ就テハ

被保險船舶海難ニ罹リタル場合修理費ニ付保險者ト被保險者間ニ意見ヲ異ニスルトキハ各專門技師一名ニ全權ヲ

委任シ其協定ニ據ルモノトス其委任技師間ニ於テ猶意見
ヲ異ニスルトキハ其委任技師兩名ノ指名セル第三ノ專門
技師ノ判斷ニ服從スベキモノトス

將又海外ノ此種條項中ニハ保險者ガ被保險者ノ
提出セル見積ヲ承認シ又ハ同意ヲ表スル迄即チ
修理着手迄ニ損傷船舶ヲ滯船セシメシ休航損害
トシテ保險金額ニ對スル一定ノ割合ニテ賠償ヲ
約スルモノモアリト云フ或ハ又被保險者ガ此種
條項ヲ履行セザリシ怠慢ニ對シテ填補ヲ行フベ
キ金額ヨリ一定ノ割合ヲ以テ控除ヲナス文句ヲ
挿入スルモノモアリト云フ

(二) 修理費用見積ニ於ケル差異

船舶ノ修理費ノ如ク著シキ差異ヲ生ズルモノハ
稀ナラン同一ノ損傷ヲ修理スルニ當リテソノ金
額ト工事日數トニ於テ甚ダシキ相違ヲ生ズルコ
トアリ而シテ修理費ノ廉不廉ハ保險者ノ填補額
ニ影響シ工事日數ノ長短ハ休航ノ關係ヨリ船主
ノ經濟ニ利害ヲ及ボシ一般ニ工事日數短カケレ
バ修理費多ク工事日數長ケレバ修理費少シ是レ

最モ注意スベキ點ニシテ「テングークローズ」ノ
難解ナル所以ナリ何ントナレバ此條項ハ修理費
ノミヲ重視シテ工事日數ノ長短換言スレバ休航
損害ノ多寡ヲ考量セザレバナリ茲ニ於テカ此兩
種ノ損害即チ直接損害ハ間接損害ノ負擔者ノ利
害ノ調和ヲ計ルノ標準ノ必要アルナリ余輩ハ此
標準ヲモ彼 Careful & Prudent Uninsured Owner
Principle ニ據ラントスルモノナリ元來汽船ノ修
理費ハソノ修理ヲ請負フ所ノ工場ノ技術家ノ識
見、工場設備、經營組織、規模ノ大小、ソノ時
ニ於ケル工場ノ繁閑、貯藏材料ノ高廉等ノ種々
ノ事情ノ下ニソノ見積額ニ於テ常ニ多大ノ相違
ヲ來スハ蓋シ自然ノ數ニシテ又止ムヲ得ザルナ
リソノ一例トシテ視ルニ足ルベキハ明治四十
一年海國日報ニ記載セラレタル所ニヨレバ汽船遼
東丸ガ甲乙丙丁(假ニ斯ク名ク)ナル四ヶ所ノ造
船所ノ見積ヲ徴シタル所左ノ如キ相違アリシト
云フ

甲造船所

修理費金一萬二千二百圓見當

工事日數二十日間

乙造船所

修理費金一萬一千九百九十圓見當

當

工事日數二十五日間

丙造船所

修理費金七千九百九十圓見當

工事日數十四日間

丁造船所

修理費金七千二百七十八圓見當

工事日數十八日間

即チ修理費ニ於テハ最多額ト最小額トノ差ハ

金四千九百二十二圓ニシテ工事日數ニ於テハ十

一日間ノ差アリ又以テ造船界ニ於ケル見積ノ區

區タルヤヲ推知スルニ足ラン是レヲ以テ視レバ

「テンダー、ローズ」存置ノ理由モ敢テ非難シ得

ザルガ如シ今此差異ノ生ズベキ主タル原因ヲ略

說スレバ(1)造船所ノ位置、即チ中央港灣(例

ヘバ神戸横濱等ノ如キ船舶ノ常ニ輻湊シテ荷物

ノ堆積セル港灣)ヨリ遠隔ノ地ニアル造船所(例

セバ横濱ニ對スル浦賀神戸ニ對スル備後又ハ因

ノ島ノ如キ)ハ勢ヒ低廉ナル見積ヲナサザレバ

中央港灣所在ノ造船所ト競争シ得ザルベシ(2)

事業ノ繁閑即チ或ル修理ヲ申込マレタル場合ニ

現ニ多大ノ註文^{イデント}ヲ有スル工場ハ勢ヒ見積ヲ高ク

スル可ク閑散ナル工場ニ於テハ職工ノ熟練技能

Skill Labour ヲ維持スル爲メ忍ンデ低廉ナル見

積ニ甘ンズ可シ(3)仕入材料ノ値段即チ見越輸

入ソノ他低價ニテ材料ヲ購入シ又ハ貯蓄品ヲ有

スルモノハ從テソノ見積モ低廉トナラン(4)技

師ノ識見技術上ノ見地ヨリシテ修理ノ方法程度

ニ於テ差異ヲ生ズベシ要スルニソノ時ニ於ケル

工場ノ需供ノ關係設備等ハ大ニ見積費ノ多寡工

事日數ノ長短ニ影響スルモノナリ、

(II)「テンダー、ローズ」ト保險者及

被保險者ノ利害

保險者ト被保險者ノ利害ノ抵觸換言スレバ修

理費ト工事日數トノ調和點ハ「テンダー、クロ

ズ」ニ於テ如何ニシテ定ムベキヤ是レ本論ノ主眼トスル論點ナリ、

保險契約ニ於テ原則トシテ修理中ノ体航損害(Damages for Detention)ハ保險者負擔セズ船員ノ給料モ特殊ノ場合ノ外ハ被保險者ハ之ヲ請求スル能ハズ故ニ被保險者ノ保險者ニ填補ヲ請求スル所ノモノハ修理費ノミ即チ船主ハ修理日數長ケレバ從テ体航損害多シ保險者ハ然ラズ修理費少額ナレバ夫レ丈填補責任少キ譯ナリ之レ實ニ利益ノ矛盾ヲ起ス點ニシテ「テンダータローズ」ノ難解ナル所以ナラズ哉

今例ヲ以テ示サンニ三千噸ノ汽船アリソノ一日ノ船費二百五十圓ヲ要ストセバ此船ニ保險者ノ擔保スル損傷發生シタリト假定シ甲造船所ハ修理費千圓工事日數二十日間乙造船所ハ修理費千二百圓工事日數十五日間ノ見積ヲ提出シタリトシノ損害額ヲ計上スレバ

甲ニ委託スル場合 修理費

¥1,000.00

体航損害	¥230×20 = ¥4,600.00
總計	¥6,000.00
乙ニ委託スル場合 修理費	¥1,200.00
体航損害	¥230×15 = ¥3,450.00
總計	¥4,650.00

即チ修理費多額ナレドモ乙ニ委託スル方船主ノ利益ナリ之ニ反シテ保險者側ハ填補ノ責任ヨリ視テ甲ニ委託スルヲ欲スルナラン此場合ニ於テ「テンダータローズ」ニヨリ且又保險證券ノ損失輕減條項ニヨリテ保險者ハ千圓ノ填補ヲナスニ止マラン然レドモ被保險者側ヨリ見レバ千二百圓ノ修理費ニ對シテ千圓ノ填補ヲ受クルモ猶乙ニ委託スル方利益トナラン何ントナレバ船主ノ被ムルベキ損害即チ体航損害ト見積額ノ差トヲ合計シタルモノハ甲ニ委託スル場合ノ体航損害ヨリ小額ナレバナリ

今若シ修理費見積ト工事日數トノ差ガ非常ナル差アル場合ヲ想像センカ例ヘバ甲ハ修理費三

百圓乙ハ修理費九百圓甲ハ工事日數三十日間乙ハ六十日間ノ見積ナリシトセヨ而シテ一日ノ船費ヲ二十圓ト假定セバ

甲ニ請負ハシタルトキ	修理費	¥ 300.00
	修船損害	¥20×60 ¥1,200.00
	總計	¥1,500.00
乙ニ請負ハシタルトキ	修理費	¥ 900.00
	修船損害	¥20×30 ¥ 600.00
	總計	¥1,500.00

然リ而シテ船主ノ側ヨリ視レバ乙ニ委託スル方利益ナルヤ明カナリ何ントナレバ修理費ハ保險者ヨリ填補ヲ受クベク休航損害ニ付テハ三十日間即チ金六百圓ヲ取得スレバナリ之ニ反シテ保險者ハ甲ニ委託スルコトヲ欲スルナラン何ントナレバソノ填補責任ニ修理費ノ差即金六百圓ノ差ヲ生ズレバナリ而シテ此相違ハ工場ノ設備不完全ナル地ト完全ナル地トノ間ニ生ズ何ントナレバ設備不充分ノ所ニテハ日數ハ長クナルモソノ手間賃ハ廉ナルヲ以テ修理費ハ從テ廉ク之

ニ反シテ設備ノ完全ナル地ニテハ器械力ノ力ヲ借り道具代等ニ費用ヲ要スルヲ以テ修理費ハ高クナルノ傾向アレバナリ余輩ノ考フル所ニテハ斯カル利害ノ衝突シタルトキニ於テハ極端ニ「テンダークローズ」ヲ採用スベカララド信ズルモノナリ宜シク注意深キ無保險船主ノ採ルベキ方針ヲ標準トシテ保險者ト被保險者トノ間ニ協定スルヲ可ト信ズ即チ「テンダークローズ」ノ解釋ニ當リテモ休航損害ヲ考量シテ船主ノ利益ヲモ顧視スルハ蓋シ保險者ノ德義的營業策ナラン歟

(四) 實際ニハ如何ニシテ修理セラル、ヤ此問題ヲ述ブルニ於テハ便宜上之ヲ外國保險ト内國保險ニ分ツヲ可トス

一般ニ外國保險ニ關係ヲ有スル本邦船舶ハ英國「ロイズレヂスター」協會又ハ那威「ヴェリタス」協會ノ如キ船級協會ニソノ船ノ格附(Class Record)ヲ有ス故ニ保險者ニ填補ノ責任アル修理ノ

必要生ジタルトキハ先ヅソノ發生シタル場所附近ノ「ロイヅエゼント」ニ通知シテ検査員ノ派出ヲ請ヒ其検査報告ニ基キテ修理ヲ施行セバ外國保險會社ニ於テハ殆ンド異議ナク填補シ呉ル、ナリ猶又保險者ヘ對スル請求書ニ「ロイヅ」「エゼント」ノ修理費ニ對スル相當ナルコトノ認證ヲ受クルヲ便トス故ニ「テンダークローズ」ニ依リテ紛議ヲ生ズルコト殆ンド稀レナリ。

之ニ反シテ内國保險ニ於テハ保險者ト被保險者間ノ交渉モ頗ル迅速ニ行ハルハヲ以テ「テンダークローズ」ノ爲メニ紛議ヲ生ズル場合少カラザルベシ。然レドモソノ修理費ノ證明ニ對シテ便宜ナル方法絶無ニ非ズ即チ明治三十四年十二月遞信省公達第七百二十九號船員法取扱手續ノ規定ニ依レバソノ第三十三條ニ

第三十一條ノ場合ニ於テ（船員法第十八條ニ依リ報告書認證ノ申請アル場合ヲ指スモノトス）船體又ハ積荷ノ損害ニ付鑑定人ノ鑑定ヲ受ケ鑑定書ヲ提出シ之ニ認證ヲ受ケントスル者アルトキハ其鑑定人ノ適當ナルコトヲ認メ

タル上左ノ文例ニ依リ鑑定書ノ終尾ニ記載ヲ爲シ之ヲ認證スベシ

右鑑定書ハ本管海官廳ノ適當ト認メタル鑑定人何某ノ作成シタルモノナルコトヲ認證ス

明治何年何月何日

管海官廳名印

前項ノ場合ニ於テ書面又ハ鑑定書ニ葉以上ニ亘ルトキハ管海官廳ノ印ヲ以テ每葉ニ契印スベシ

トアリ即チ是ニ依リテ被保險者タル船主ハ間接ニ官廳ヨリ修理費ノ見積額ニ對シテモ認證ヲ受クルコトヲ得ベシ然ルニ我國ノ船主間ニハ未ダ一般ニ此認證方法ノ存在セルコトヲ普知セラレザルガ如シ且ツ又此認證ニ對シテハ全然無料ナリ。

次ギニ修理ハ如何ナル程度ニ止ムベキヤ是亦問題ナリ例ヘバ船體ノ外板ニ破孔ヲ生ゼシトス然ルニ之ニ當金ヲ施スモ航海ニ差支ヘナキモノノ體裁將來ノ價格等ヲ考量セバ外板ヲ取替ユルノ必要アルベシ此兩者ノ修理費ノ相違ハ非常ナルモノナラン此際保險者ハ如何ナル程度ノ修理

ヲナスコトヲ認ムルヤ疑問ナリト云フベシ

我國ノ船舶ハ検査規程ニ合格スルヲ要ス故ニ修理ノ最少程度ハ検査規程ニ合格スルヲ條件トスベシ而シテ格付ヲ有スルモノニ於テハ更ラニソノ格付ニ合格スル程度ニ行ハザルベカラズ要スルニ修理以前ノ原狀ニ回復スルコトハ保險者ニ於テモ之ヲ認ムルモノナカランガウノ海上保險論ニ此事ニ關シテ次ノ記述アリ、

Measure of liability for particular Average is the cost of such repairs as will put the vessel in the same state of efficiency as she was in before the accident which rendered these repairs necessary.

之ヲ要スルニ「テンダークローズ」ノ存在スル場合ニ於テモ保險者ハ被保險者ニ自由ニ工場ノ選定ヲ行ハシメソノ修理費ノ甚ダシク不當ニ非ル限リハ同意スルハ圓滿ニ營業ヲナス所以ニシテ被保險者ニ於テモ出來ル丈低廉ナル方法ヲ以

テ修理ヲ行フベク又前記セル如キ認證書類ヲ保險者ニ提出スベシ而シテ疑義ヲ生シタルトキニハ善良ナル無保險者ノ探ルベキ方法ヲ標準トシテ兩者ノ利害ヲ調和スベシ然レドモ保險者被保險者間ノ信用増大スルニ至ラバ此條項ハ必要ヲ認メザルニ至ラン